

8月定例教育委員会会議録

1 日 時	令和6年8月27日(火)午後5時30分から午後7時00分まで
2 会 場	磐田市役所西庁舎3階特別会議室
3 出席者	山本敏治教育長、鈴木好美委員、秋元富敏委員、大橋弘和委員、阿部麻衣子委員
4 出席職員	鈴木壮一郎教育部長、鈴木雅樹教育総務課長、大學裕学校づくり整備課長、石田和代学校給食課長、森下昌司学校教育課長、天野敏之放課後活動課長、伊東直久中央図書館長、神谷英雄文化財課長、清水大輔幼稚園保育園課長、山下和洋自治デザイン課長、兼子順子スポーツのまち推進課長、岡本由紀子文化振興課長、稲垣美千代福祉政策課長

(傍聴人1人)

(進行委員：秋元富敏委員)

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

改めましてこんばんは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

8月8日、宮崎県で震度6弱、マグニチュード7.1の地震が発生したことを受け、気象庁から午後7時15分に、2019年5月の本格運用開始以来、初めて「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。本市においても、災害警戒本部体制をとり、1週間後の8月15日の午後5時まで継続しました。この情報は、ご案内のとおり、予知ではなく過去の統計から大規模地震の発生の可能性が平時より高まっているという注意を促す情報です。今回の情報発表を受け、改めて、日頃からの備えとして、飲料水等の備蓄品や非常用持ち出し品の確認、家具の固定、さらには、地震が発生した場合の避難経路や家族との連絡方法の確認等の大切さを再確認しました。学校については、夏休み中であつたため、学校運営に関して、大きな混乱はありませんでしたが、学期中での発表であつたらどうだったのか、また、巨大地震注意よりも可能性が高い「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合(事前避難地域を学区にもつ学校は、1週間程度の休校措置となるなど対応が変わる)はどうなのか等々、「いつ起こるかかわからない」という前提で、準備を進めていく必要があります。今回の事例を踏まえ、各学校においては、改めて、「南海トラフ地震臨時情報」発表時及び大規模地震発生時の対応について、教職員はもちろんのこと児童生徒や保護者の皆様に、正しく理解し、適切に行動できるよう働きかけをしていきたいと考えています。

夏休み期間中は、磐田市の歴史や文化のすばらしさを改めて感じる機会が幾つかありました。例えば、小学校5年生から中学生を対象とした、公益財団法人日本城郭協会理事の加藤理文氏による子どもたちの郷土史講座「磐田の城郭について」や見付宿を考える会主催の「国登録有形文化財(建造物)登録記念講演会」、文化財課企画展「磐田の城と戦国大名—今川から徳川へ—」などです。講演会や企画展等の運営に関わっていただいた皆様、ありがとうございました。今後も、磐田市の歴史や文化の魅力を市内外に発信していけたらと考えています。その一環として、小中学校の社会科歴史の学習の中で、例えば各種古墳や国分寺、城之崎城、酒井の太鼓、旧見付学校、赤松家、緑十字機など、磐田市の主な文化財や史実を子どもたちに紹介できるよう、現在文化財課でその教材を作成していただいています。これを一人一台端末で見られるようにすることで、教科書の内容と磐田の歴史とを結び付け自分事として学ぶとともに、磐田の文化財や史実にさらに興味を持ってもらえたらと考えています。現在整備を進めている国分寺公園を始め、市内文化財の魅力を発信するために、こんな利活用をしたら、こんな企画をしたら等々、ぜひ皆様のアイデアをいただけたら幸いです。

本日は、9月議会に関する内容が中心となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 前回議事録の承認

7月18日定例会、7月23日臨時会に関して

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

○2点お願いをします。まず1点は台風ですが、非常に速度が遅くて勢力が強いということで心配をしています。豊岡地区と大藤地区については今までの雨量で水が土壌にたくさん含まれているということで、土砂災害の警報級が出る可能性が非常に高く、避難指示や高齢者等避難も出る可能性があります。その場合、夏の今の環境ですから、学校対象校の特別教室を避難所として開く可能性がありますので、この場を借りて報告させていただきます。2点目は、本日令和5年度の決算の報告をさせていただきますが、端的にポイントを絞って各課長から説明を行いますので、よろしくお願ひします。

5 議事

・議案第47号 令和5年度磐田市一般会計歳入歳出決算（教育費関係）の認定について

○市政報告書の抜粋資料をもとに、各課から新規の取り組みや成果と課題を報告します。

自治デザイン課

○はじめに、交流センター等施設管理事業のうち、磐田市公共施設予約システム導入については、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、交流センター利用者の施設予約に関し、体育施設や文化施設などで既に利用されていた「公共施設予約システム」を導入し、利用者の利便性の向上を図りました。併せて、交流センター職員の受付業務に係る負担軽減につなげることができました。

次に、生涯学習推進事業のうち、二十歳の集いについては、平成17年の合併後、式典としては、初めて参加者が一堂に会する形式で実施をしたものです。大きな混乱はなく、概ね順調に開催することができ、参加者の満足度の向上につなげることができました。

次に、家庭教育支援事業については、幼稚園や保育園、こども園などで保護者を対象とした出前講演会を前年度比で、プラスの13件、計30件開催しました。これは、コロナ後において、各園での保護者会や懇談会などが徐々に復活してきたことによるものであると考えています。

最後に、成果と今後の課題のうち、課題についてです。交流センター等施設については、昭和50年代に設置された施設が6割以上を占め、施設の修繕等、維持管理費用も大きく、早急に長寿命化個別計画等を策定する必要があると感じています。今年度は、まず、ワークショップ形式で、市民の皆さんから今後の交流センターのあり方などについてご意見をいただいた上で、計画づくりに着手したいと考えています。

スポーツのまち推進課

○はじめに、体育施設管理事業のうち、委託の状況についてですが、本市においては、社会体育施設43施設を5つのグループに分け、管理運営を指定管理者に委託しており、詳細は記載のとおりとなっております。工事の状況についてですが、ゆめりあフットサル場ほか6施設において修繕工事などを実施し、利用者の安全安心の確保に努めました。

次に、その他体育施設管理事業については、学校体育施設の管理や予約受付等の業務を委託しており、詳細は、記載のとおりです。

次に、市民スポーツ活動支援事業のうち、主なスポーツ教室・イベントについてですが、コロナの影響もなくなり、予定どおりに実施することができました。

次に、小中学生一斉観戦事業についてですが、令和5年度は、小学5・6年生によるジュビロ磐田ホームゲーム一斉観戦事業に加え、中学2年生による静岡ブルーレヴズホストゲーム一斉観戦事業を初めて実施しました。

次に、戦略的スポーツイベント活用事業についてですが、国際的なビッグイベントなどの盛り上がりスポーツのまち磐田の発信に繋げるため、展示や機運醸成イベント等を実施し、より効果的な情報発信に努めるとともに、全国大会開催の支援を行いました。

最後に、成果と今後の課題のうち、成果については、記載のとおりですが、課題については、ハード面では施設の老朽化に伴い修繕箇所が増加しており、計画的な修繕や改修が必要であることや、ソフト面ではスポーツ実施率の低い子育て世代に向けた運動に触れる機会の提供を図っていくことが必要と考えています。また、スポーツのまち磐田をこれまで以上に全国に発信することで市のブランド力を高めていきたいと考えています。

文化振興課

○はじめに、文化芸術振興事業ですが、これは文化の向上及び振興を図るとともに、生の芸術に触れる機会を提供することを目的として文化振興事業を実施する磐田文化振興会に対する補助金の交付などが主なものです。

振興会事業の開催状況は、記載のとおりです。昨年度は、市民文化会館「かたりあ」がオープン2年目として、1年間を通し各公演多くの方にご来場いただきました。県内初開催となる「静岡県高校ダンス部コンテスト in 磐田」の実施のほか、著名アーティストや市ゆかりのアーティストなどの公演を実施し、市民に生の文化芸術に触れる機会を提供することができました。今後もみなさまに興味や関心をもっていただけるような公演等を行っていききたいと考えています。

次に、文化芸術活動支援事業ですが、これは磐田市文化協会に対する補助金交付が主なものです。

次に、青少年文化芸術活動育成支援事業は、先日修了公演を行いました磐田こどもミュージカルをはじめ、市内の中学校吹奏楽部への器楽指導者派遣事業など青少年の文化芸術活動の育成支援を目的に補助や委託事業を行いました。

次に、展示体験施設費は、香りの博物館・新造形創造館それぞれの施設の管理運営業務を指定管理者に委託したものです。施設の長寿命化を図るため、それぞれの施設に必要な工事等を実施しました。

今後も、市民文化会館「かたりあ」を核とした文化ゾーンでの活動を中心に、市民の文化振興のため事業内容を充実させていきたいと考えています。

福祉政策課

○はじめに、ふれあい交流センターにおける事業です。毎年10月に開催される、ふれあい交流センターまつりをはじめ、人権啓発映画会、外国人を対象とした日本語教室、子ども英会話教室、相談事業を開催し、昨年より370人ほど多い施設利用がありました。

次に、人権教育講演会の開催です。令和5年度はインターネットによる誹謗中傷をテーマにSNS上での誹謗中傷による人権侵害にて最愛の娘さんを亡くされた、木村響子さんを講師にお迎えし、誹謗中傷をなくすためには何ができるかをお話いただきました。参加者からは、「SNSの恐ろしさを広く知らせるべき」「講師の言葉が心に響いた」など実体験された方の講演だからこそ伝わるものがあり、あらためて何ができるか、何をすべきかを考える機会となったと感じています。また、アンケートでは、講演会に参加して「人権問題に関する理解が深まった」との回答を約95%の方からいただきました。今後も、さらなる人権問題への関心や、知識を深める場に多くの市民が参加してもらえるよう周知、啓発を行っていききたいと考えています。なお、今年度の人権教育講演会は11月に「障がい者の人権」をテーマに講演を予定しています。多くの方にご参加いただき、人権について考える機会としてもらえればと思っています。

最後に、人権教室の開催です。人権擁護委員が講師となり、令和5年度は市内5校、こども園1園等を訪問し、延べ419人にDVDや紙芝居などを活用しながら分かりやすく人権の大切さを伝えました。これまで主に小中学生に対しての教室開催でしたが、令和5年度はこども園からの依頼があり、あらためて幼保、こども園への周知を実施したため、今後は就学前の園児に対する教室開催の増加が期待されることから、園児にもわかりやすい伝え方を工夫し、多く子どもたちに人権への理解を深めてもらいたいと思っています。

幼稚園保育園課

○保育園・幼稚園・こども園等共通事業について、幼児教育・保育の質を更に向上させるため、各園が子どもの現状や課題を踏まえた目標を立てる中で、子どもの主体性を大切に教育・保育活動を展開しました。具体には、保育園・幼稚園・こども園が連携して研修会を実施したり、小学校との接続を円滑に行うため、公開保育や公開授業を通して、保育・教育の理解につなげたりしました。また、個別な支援を要する子どもやその保護者に対して、寄り添いながら丁寧に対応しました。

次に、幼稚園事業のうち、幼稚園施設整備事業です。エアコンの設置等に加えて、行政専用ネットワークであるL G W A Nの無線化工事を行ったほか、通園バスへの安全装置設置など、保育環境の改善に努めました。

成果と今後の課題では、公立園については、D Xの推進や豊田北部幼稚園と豊田北保育園の統合・民営化の決定、預かり保育事業の見直しなど、幼児教育・保育の向上に努めました。課題としては、保育園ニーズは高止まりが続いている一方で、幼稚園児数は減少が止まらない状況です。築 50 年となる園舎も多く、修繕対応も増えています。そのため、こども園化を軸に、統合や民営化も含めて対応しているところです。

教育総務課

○教育総務課は組織見直しにより、令和 6 年度から 1 課 1 グループ体制となりました。令和 5 年度の市政報告書資料に関しては、学校づくり整備課事業も含まれていますので、ご承知おきください。

課題としては、保護者を始めとした市民に磐田の教育への理解が浸透していないため、磐田市の教育理念や教育政策について、効果的な情報発信を行うことと認識しています。

次に、教育施設・設備の整備状況について、令和 5 年度は前年度に引き続き、国庫補助金を活用した新型コロナウイルス感染症対策として保健衛生用品等を購入しています。

次に、教育振興事業について、就学援助費や特別支援教育就学奨励費の支給事業について、令和 5 年度も引き続き支援が必要な世帯へ確実に援助ができるよう、学校と連携しながら、家庭の実態把握に努めるとともに、市のホームページや広報などで制度の周知に努めております。令和 5 年度の就学援助率は、小学校 8.5% で、前年度比 0.1% の減、中学校 10.2% で前年度比 0.3% の減になっております。今後も学校との連携を密にし、必要な方へ支援が行き渡るよう努めてまいります。

学校づくり整備課

○まず、新たな学校づくり事業についてです。向陽学府小中一体校については、実施設計を完了、本体建設工事の準備を整え、一部解体工事にとりかかりました。また、先行工事として、受水槽・受変電施設・浄化槽・テニスコート・駐車場の整備を行いました。決算額については記載のとおりです。なお、開校後の新たな小学校名を「向陽小学校」に決定しました。

課題は記載のとおりですが、中でも先刻ご案内のとおり通学に係る安全対策です。校舎建設工事は順調に進捗していますので、敷地拡張による安全対策を急ぎ進めていきます。

次に、教育施設・設備の整備状況についてです。詳細は記載のとおりです。中でもトイレ洋式化改修工事を重点事業として進めました。令和 7 年度末までには洋式化率 60% 以上となる見込みです。

課題は、建設業界の監督員不足により受注が絞られてきており、夏休み期間だけでは工事を完了できない状況です。学校には迷惑をかけますが、今後、発注時期や発注方法を工夫しながら予定どおりの工事をこなせるよう考えていきます。

学校給食課

○令和 5 年度は、全体で約 279 万 6 千食余りの給食を提供しました。食材料価格の急騰により、学校給食栄養摂取基準を満たす献立を提供することが困難となったことから、令和 5 年度より給食費保護者負担金の改定を実施し、栄養バランスや量を保った給食を安定的に提供することができました。またそれに伴う保護者負担の軽減のため「新型コロナウイルス感染対応地方創生臨時交付金」を活用し、改定前と同程度の負担となるよう努めました。また、豊岡学校給食センターに炊飯設備を設置し、豊岡地区の学校、幼稚園、こども園にセンターでご飯を炊いて提供することができるようになりました。

成果と今後の課題のうち成果としまして、今申しあげましたとおり給食費保護者負担金を改定し食材料費の高騰に対応することで学校給食栄養摂取基準を満たした給食を提供することができました。課題につきましては、未だ物価の高騰が続いている中で、栄養バランスのとれた学校給食を提供するための工夫をしながら、今後も安全でおいしい給食の提供に努めていきます。

学校教育課

○学校の学級数等の状況は資料をご覧ください。

個に対する教育について、成果としては、市費負担教員（ふるさと先生）の配置により、教職員が保健室登校・不登校生徒に対応できる時間が増えたことで、より生徒一人一人の実態に応じた支援が可能となりました。一方で、市費負担教員の課題に寄り添った適切な育成を行っていくことと、市費

負担教員の確保が課題であると捉えています。

続いて、魅力ある学校づくりの推進について、小中一貫教育及び地域に開かれ信頼される学校づくりを推進しました。成果としては、コミュニティ・スクールディレクターもしくはコミュニティ・スクールコーディネーターが核となって地域と学校との協働活動を推進し、約 7,000 名のボランティアが、小中学校において活動を推進することができました。一方で、次世代のコミュニティ・スクールディレクターやコーディネーターを育成していくことが、今後の大きな課題となると感じています。

続いて、情報化に対応した教育について、わかる楽しい事業の創造、そして情報活用能力の育成のために、コンピュータや情報ネットワークを活用した教育を推進しました。また、校務の効率化を図る ICT 環境の整備も行いました。成果としては、プログラミング教材や AI 自動追尾カメラの実践研修を行う中で、1 人 1 台端末の可能性が広がって端末活用の拡充が図られました。また、教職員においては、グループウェアのミライムを森町と袋井市と同一化することで連絡がスムーズになりました。児童生徒の端末の保守運用に関して、今後の課題破損等にどう対応していくかといったことが課題になると思います。

続いて、国際化に対応した教育の成果については、昨年度から小学校対象の e-S.P.E.A.K プロジェクトを全面実施したことにより、子どもたちが英会話の楽しさを味わって、中学校の英語教育につながることができました。また、外国籍児童生徒が増えている中で、初期支援教室 N I J I から、スムーズな学校への連携が図れるようになってはいますが、様々な言語への対応が今後の課題です。

続いて、教育課題等への対応の成果と今後の課題について、豊岡南小学校に LD 等通級指導教室を新設したことで、北部エリアへのサポートができるようになりました。また、相談窓口等を設けることにより、ケース会議の実施や関係機関との連携もスムーズになり、チーム対応が進んできています。一方で、そういったニーズのある児童生徒が増えていることもあり、直接的な支援や保護者への対応が今後ますます大変になってくると考えています。

放課後活動課

○磐田部活推進事業について、部活動の地域連携・地域移行に向けたグランドデザイン、新たな地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」のロードマップを策定、公表をしました。

放課後児童クラブ運営事業について、公設 50 クラブを運営した他、夏休み児童クラブの一部、4 クラブの運営委託を実施しました。また、入退室管理システム（コードモン）の導入をしました。

中央図書館

○市立図書館 4 館とながふじ図書館の運営に関わる 5 事業ですが、各事業ともに、成果と課題を中心に説明いたします。

施設管理事業について、令和 4 年度の下半期から公式 LINE アカウントとインスタグラムの運用を開始し、LINE では現在 5,300 を超える友達登録がされています。インスタグラムのフォロワー数は 500 を超えている状況です。また、施設の長寿命化として中央図書館メインフロアの照明を 3 ヶ年計画で LED 化することや、竜洋図書館の空調機器改修を進めました。課題としては、若年層の来館につながるサービスや企画を研究していきます。

ながふじ図書館運営事業について、成果としては、ながふじ学府一体校の子どもたちに充実した読書環境を提供できるよう、さまざまな企画を実施しました。今後も、保護者や地域の方々の使いやすさを意識して、学校と協力して運営していきます。

読書活動推進事業について、成果としては、コロナ禍での制限が解けたことで、特設コーナーやおはなし会など、積極的に展開することができました。課題としては、子ども時代の読書活動の大切さを、保護者に知ってもらうための情報発信が重要ですので、関係機関と連携していきたいと考えます。

図書館資料整備事業について、これまでと同様、各館が協調して効率よく資料収集してきました。赤松文庫などの貴重な資料の電子化も順次進めています。課題としては、魅力ある書架づくりや企画展示の検討です。市役所関連の健康増進や防災、スポーツ関連などに加え、外部の事業者とも連携した企画に取り組みたいところです。

図書館視覚障害者サービス事業について、視覚障害者へ読書機会を提供するための事業として、対面での朗読サービスや、要望に応じた録音図書や点訳図書を作成し提供しています。今後も読書機会が提供できるよう努めます。課題としては、事業に協力していただける人材の確保と育成ということ

になりますが、焦らず進めていきたいと考えます。

文化財課

○はじめに、施設の管理運営では、新たに4月より埋蔵文化財センターの土曜・日曜の開館を実施し、また、夏の企画展と連携したイベントの開催により夏休み期間中も多くの入館者を集めることができました。入館者数は前年比1,089人の増となりました。旧見付学校や旧赤松家記念館の入館者数も5月にコロナが5類になったことから、徐々にではありますがコロナ禍以前に戻りつつあります。旧見付学校では前年比3,146人の増、旧赤松家記念館では4,421人の増となりました。

次に、文化財の保存整備と普及啓発では、新たに市指定文化財1件、登録有形文化財3件があり、文化財の指定・登録への取り組みを行いました。普及啓発では、大河ドラマ「どうする家康」の放映に合わせ、家康関連の企画展や歴史講演会を実施し、多くの方に参加いただきました。遠江国分寺整備事業では金堂基壇の復元整備を行いました。

次に、埋蔵文化財調査では、向笠西の後山古墳群の本発掘調査及び市内各所で確認調査を計18件行い、開発事業に対処しました。発掘調査が終了したものについては出土遺物等の整理作業を進めました。

<質疑・意見>

■自治デザイン課の課題で「子どもから高齢者まで多世代が積極的に関わる地域づくりを行っていくために、地域の役員など多様な意見を反映する必要性を感じてもらう取組を進める」とありますが、どのようなことを具体的に考えていますか。

□自治会や協議会などの地域のコミュニティは男性で年配の方が多く役員でいらっしゃって、若年層や女性が入りにくい状況にあります。それぞれの自治会長さんや地域づくり協議会のそれぞれの会合がよくありますので、そういった場を捉えて啓発活動をまずはやっていたらと考えています。

■スポーツのまち推進課の課題で「スポーツ実施率が低い世代に向けて、実施率が向上するような事業を実施していく」とあり、先ほど子育て世帯のスポーツ実施率が低いと説明がありましたが、具体的にはどのように考えていますか。また、「スポーツのまち磐田を今まで以上に全国に発信することで、磐田市のブランド力を高めていく」とありますが、具体的な取組を教えてください。

□まず、実施率が低い子育て世代、特に女性の実施率が低くなっていますが、そういった方向けに、昨年度も既にららぽーとと連携して、ららぽーとの中でのウォーキングイベントをやっている、今年度も継続したいと考えていますし、子どもを預かりながら親世代だけが運動できるようなイベントも今年度は考えています。

また、全国発信については、磐田市はスポーツのまちということを市内外から言っていると思いますが、まだまだそのブランド力を生かし切れていないところもあります。プロスポーツチームが3つありますので、ジュビロ磐田、静岡ブルーレヴズ、静岡SSUボニータと連携して、クラブチームの力を借りながら、スポーツのまち磐田の発信に取り組んでいきたいと考えています。

■教育総務課で向陽学府小中一体校について課題を挙げられていますが、この課題ではなくて、少し前にもお願いしたことがあります。今の中2の子たちは、1年間は今までの校舎、今年から2年間は仮設校舎で、新校舎にほとんどかかるとは思いません。一体校にかかっている中で、その子たちにも何かしてあげてほしいので、それも課題に挙げていただけるといいと感じています。

それと、学校教育課の個に対応する教育で、中学校2校に市費負担教員を配置したとあります。市費負担教員は学府に1名ずつ配置されていると思いますが、それと別に2名ということでしょうか。

□市内の中学校は10校ですので、各1名ということだと10名ですが、その他に2名を、昨今生徒指導の問題がいろいろあるため、問題を抱える学校に生徒指導を中心とした対応のために配置しています。ただ実際にはその方が対応するというよりも、その方が入ることによって時間が生み出された生徒指導主事等が対応していくという考え方で配置しています。

■全体的なことで、単年度の成果と課題というのはここに記載されていることだと思いますが、例えば、ある年を起点に大きな方向性が見直しがあり、その大きな方向性の中で課題と成果が上がってくるとは思います。その今の立ち位置がどこにいるのか、単年度の目標に対しては達成できたとかいうことで分かりますが、教育施策に対していろいろな課の方がやられている中で、どういう流れでどこに行っていくところをいつも考えます。そこがこのまとめではなくてもいいと思いますが、期末や期

初にお聞きする中でももう少し自分の中で整理したいと思っています。各課の中では整理されているのかもしれませんが、そこを教えてください。

□今回の令和5年度事業の決算の市政報告書、附帯の資料としての課題と成果が主に載っていますので、御指摘のとおりだと思います。長期的なビジョンというのは、磐田市においては、教育委員会だけではなく、市全体の総合計画、実施計画、それについては何年ごとにローリングをかけながら、教育施策も含めて将来目標に出ていく中で、大きな課題、そしてその目標に向かった成果が出てくると思います。我々は異動してまいりまして、教育施策のうち、例えば学校施設の老朽化が激しい中で建替や再築の計画がないという課題を認識して、現在その作成に努めているところです。それに基づいて、今後どこまで成果があらわれたというところは出てくると思っています。我々の課題と捉えているものについても計画をつくりながら、そしてそれをチェックしながら、こういう場でお諮りをする機会がこれから出てくるかと考えています。

□昨年度の歳入歳出の決算の資料を1年単位でまとめているためこのような表現になっていますが、もちろん長期計画の中の1年という見方をしていけないと、どこに向かって進んでいるのかが見えなくなってしまうし、例えば5年スパンでの成果と課題ももしかしたら出てくるかもしれないし、そういうスパンを意識しながら評価していかななくてはいけないと今お話を伺って感じました。

□向陽学府についても単年度での成果と実施の内容が出ていますが、具体的に全体の中でどうだというのは出ていないし、トイレの改修計画もそうです。他のセクションであっても、各課多くの課題を抱えているため、それを少し見える化する必要があるかと思っています。ただ、補助執行の部分も結構あって、市長部局の流れの中で進めているものと教育委員会の中だけで完結するものの差は、若干ありますから、どのように整理をしながら見える化していくのかというのは、教育分野だけではなく、市の課題と思っています。

□長期スパンの中で今どうなっているかを、全てが全てお示しできるかは分かりませんが、ある程度特定分野の中で気になっているところについて、情報共有、意見交換するような場をまた持たせてもらえればと思います。

■定員を超過している私立園がいくつかありますが、どの程度までであれば超えて良いのか、何か基準のようなものはありますか。

□私立園は運営費として国・県・市から給付を受けていますが、給付費の算定のための基準では、認定こども園、幼稚園等によって2年から5年までと年数が異なりますが、利用定員の120%程度の受入ができるとされています。

■公立園のこども園化について、幼稚園型として3歳児からの保育園枠を設けても、園児数が増えていく見込みはありますか。

□幼稚園とこども園の幼稚園枠の園児を対象に、預かり保育事業を実施していますが、利用者の中には希望する保育園に入れなかった人もいますので、幼稚園のこども園化や、こども園の保育園枠の拡充は、保育サービスとして必要なことと考えています。

○文化振興課の課題で「かたりあを中心とした文化ゾーン全体で一体感を高める取り組みを検討していく」とあります。私も先日こどもミュージカルを見に行かせてもらって、車では来場しやすいと思いましたが、駅から車がない方の交通アクセスを整備していただけたらいいと思いました。

■文化ゾーンとはどの範囲のことですか。

□豊田町駅から熊野伝統芸能館がある辺りまでにある施設が文化ゾーンで、香りの博物館、かたりあ、アミューズ豊田、新造形創造館や熊野伝統芸能館、池田の渡し歴史風景館が対象です。

交通アクセスについては、豊田町駅から大きい催事の際はバスを運行しています。時と場合にもよりますが、近隣の方が多く集まるような催事の際は車の方がやはり多く、宝塚や地方からたくさん来られるような場合は、かなりバスの利用があり御好評いただいている、使い分けていただいていると感じています。引き続き検討していきたいと思っています。

■自治デザイン課の二十歳の集いは、今年も一堂に会する形式ですか。

□昨年同様に一堂です。

■学校給食課に質問です。昨今米不足と言われていて、豊岡地区ではお米を炊くようになったという状況もありますが、お米が高くなった場合、また学校給食費の値上げが予想されますか。それとも何

とかお米を含めて、栄養状態を保てるような工夫が今のところできていますか。地産地消の場合、地元のもの高いと思うので、大丈夫なのかと思っています。

□実際に現場の声を聞いていると、ちょっと上がってきているという声は来ていますが、今のところは何とかやりくりができる、ギリギリのところと考えています。周辺の市町に確認しますと、やはりこの高騰でもう1回上げないといけないかもしれないという声も上がってはいますが、上げたばかりですので、今は様子見で、いよいよ苦しくなってきたらまた検討ということになります。給食費は3年に1度は見直しをかけて、そのときの上昇率も鑑みてやっていきたいと考えています。

■異物混入対策として、夏休みを利用して一斉点検などしていますか。

□夏休みの調理場は運転しないで、整備、修繕、消毒に努めています。特にこれからまたいろいろな生物が出てくることもあるため、消毒を強めにかけています。今総点検を終わって、早いところでは今週末、来週には給食が開始されますが、2学期も異物混入のないように進めていきたいと思えます。

■自治デザイン課の30s祭は21人参加とありますが、人数は毎年このくらいですか。

□2年前から趣味や子育てなどをテーマに設定しつながりづくりに取組んでおり、初回はもう少し参加者が多かったです。昨年度についてはコロナの波の中で少し悪い時期にあたったというのもありますし、PRがうまくいかなかったかという反省もありました。イベントに集まった方の満足度は非常に高いですが、費用対効果を考えたときに、そのまま継続していいものかということが実はあります。今年度については、開催方法ややり方を含め、立ち止まって考えたいと思っています。

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第47号は原案どおり承認された。

・議案第48号 令和6年度磐田市一般会計補正予算第8号（教育費関係）の要求について

○歳入から説明します。15款2項1目「総務費国庫補助金」は、学校施設環境改善交付金の交付決定による増額分です。体育施設の照明灯LED化の財源として活用します。22款1項1目「総務債」は、学校施設環境改善交付金の交付決定に伴う市債の財源組替を行うものです。

次に歳出を説明します。10款1項2目「向陽学府新たな学校づくり整備事業」は、向陽学府小中一体校整備における敷地拡張の検討に要する経費の増額です。前回の教育委員会でも説明したとおり、児童生徒の安全を第一に、スクールバスの安全な乗降場所の設置、運行本数や経路の決定、送迎用駐車場の確保に向け検討したいと考えています。

<質疑・意見>

なし

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第48号は原案どおり承認された。

・議案第49号 学校医等の委嘱について

○竜洋東小学校を御担当されていた中村医師がお亡くなりになったこと、そして竜洋西小学校・竜洋中学校・向陽中学校を御担当されていた木佐森医師が病氣療養中であることを受け、磐田市白拍子の鈴木内科の鈴木恒男医師と伊藤静乃医師、そして磐田市見付のふるた内科クリニックの古田隆久医師に新たに委嘱をします。

<質疑・意見>

なし

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第49号は原案どおり承認された。

6 報告事項

(1) 自治デザイン課

<質疑・意見>
なし

(2) スポーツのまち推進課

<質疑・意見>
なし

(3) 文化振興課

<質疑・意見>
なし

(4) 福祉政策課

<質疑・意見>
なし

(5) 幼稚園保育園課

○実施済み主要事業の「(仮) イーリスプレスクール施設整備基本設計審査」は、令和7年度末に豊田北部幼稚園と豊田北保育園が閉園し、社会福祉法人浜松児童福祉園により、令和8年度から幼保連携型認定こども園を開園するにあたり、新園舎の設計について、法人与静岡県、磐田市の3者で実施したものです。新園舎は豊田北部幼稚園の西側に建設予定で、定員は、幼稚園枠30名、保育園枠123名の予定です。

「幼小接続講話」は、本日、公立園長を対象に教育部長から講話をいただいたもので、教育部長からも冒頭にご挨拶をいただきました。公立園は民営化等の再編を経て現在21園になっていますが、学校との関わりを含めて、現在取り組んでいる接続の意義や課題などをお話いただき、新たな気付きがあった園長も多いと思いますし、この取組への共通理解を改めて持てたと思います。

<質疑・意見>
なし

(6) 教育総務課

- ・令和6年度就学援助費の支給者数について
- ・令和6年度特別支援教育就学奨励費の支給者数について

○いずれも令和6年度1学期支給予定者数であり、要保護及び準要保護児童生徒は若干増加していますが、ほぼ横ばい状態です。特別支援教育就学奨励費の支給者数は、小学1年生及び中学1年生の特別支援学級入級者数が前年より増加しているため、合計人数も増加しています。いずれも制度が周知されて、もれなく申請されている状況と考えています。なお、特別支援教育就学奨励費の支給費目は、生活保護及び就学援助と重複しない費目のみ支給しています。

<質疑・意見>
なし

(7) 学校づくり整備課

○実施済み主要事業の向陽学府小中一体校建設工事説明会に先立ち、同日に起工式を行いました。

豊田北部小学校旧校舎解体前見学会では、特別支援学校建設に向けて既存校舎の解体を進めますが、コドモンで呼びかけただけで343名にお集まりいただきました。子どもたちの学校に対する愛着は非常に強いものがあると認識していますので、教育委員ご指摘の件では新しい校舎に入れたい子たちにもこのようなことをやってあげるなど、いろいろな角度から考えていきたいと思っています。

それから、向陽学府小中一体校意見交換会について、先ほど自治デザイン課からの話もありましたが、今までは自治会を通じてやりとりをしていた経緯があります。そうすると、その役員の方に限られてしまうというか、保護者の本音が聞けないという課題があったため、今年は交流センターのスペ

ースをお借りして、どなたでも心配な方はお越しく下さいという相談会を始めさせていただき、非常に好評でした。今年既に2回ほどやっていますが、こういう活動を地味ですが続けながら、地域の意見を吸い上げていきたいと思っています。

それから、通学の在り方検討委員会では、この酷暑の中、どのような通学の方向がいいのかなどを含めた中で検討を始めています。今年4回実施する予定ですので、結論が出る頃にはまた内容についてお話しさせていただきます。

<質疑・意見>

■豊田北部小学校旧校舎解体前見学会は、何かイベントを実施したのですか。

□特段何かをしたわけではなく、時間を指定して校舎の鍵を開けて、自由に見てもらいました。来た方の様子を伺っているとそれぞれに思い出のある場所があるらしく、自分の通った教室の前で写真を撮るなど、自由に校内を回っていただきました。

■卒業制作はどうしましたか。

□1か月ほど前に、自由に持って行ってくださいという期間を2週間くらい設けました。タイムカプセルが埋まっているので、絶対に捨てないでほしいという御要望がありました。

(8) 学校給食課

○これから給食が始まりますので、夏休み期間中に調理機器等の点検、修理、それから消毒を実施しました。それと同時に、毎年行っていることですが、調理員、栄養士に対して、衛生管理についての研修会を行いました。設備とともに、そこで働く方々も意識を高めていただいて、安全安心な給食の提供に努めていきたいと思っております。

<質疑・意見>

なし

(9) 学校教育課

○8月に教育用サーバーのクラウドリフトが行われ、Sharepoint というファイル共有サービスを入れております。一步一步確実に、こういったICT化が進んでいると思っております。

・磐田市教育支援センターの設置について

・磐田市教育支援センター設置要綱の一部改正について

○第3の教育支援センターが9月1日からスタートすることに伴い、磐田市教育支援センター設置要綱の一部改正をします。言葉の一部表記や、第3の教育支援センターの住所を加えました。

<質疑・意見>

■センターの支援対象数が10名程度（1日延べ20名程度）とありますが、1人につき2～3時間程度を想像されているのかとか、お昼をまたいでいる子の昼食など、どのような形で考えていますか。

□いろいろなニーズの子どもたちがいますので、短時間の滞在の子もいますし、お昼を挟む子もいるだろうというところで、トータルとして今言われたような人数になりますが、いろいろなケースに対応していくということで御理解いただきたいと思えます。

■第1と第2の教育支援センターの人数と比べてどのくらいの規模ですか。

□ほぼ同じかと思えます。ただ、第1も第2も常時その人数がいるということではありませんので、先ほど申し上げたような感じで変わっていくというか、そこを目安としていると思っております。

□第1は今30人くらい在籍していますがそれぞれで、毎日来られるわけではありません。

■在籍の手続きがあるのですか。

□1回体験をして、学校を通して入級をします。

■1人の子が複数のセンターに行くことはあまりないですね。

□今のところ想定していませんが、今後検討していかなければいけないときも来るかもしれません。

□第2に行っている子が第1にといった動きはゼロではないと思えますが、掛け持ちはありません。

(10) 放課後活動課

・磐田市中学校部活動外部指導者の委嘱（追加）について

・部活動の地域連携・地域移行の進捗状況について

○9月から活動開始する吹奏楽ですが、現時点で13名の参加予定になっています。ゴルフはインドアのシミュレーションゴルフですが、2名が参加予定となっています。

・磐田市地域クラブ活動実施要綱の一部改正について

○SPO☆CUL IWATA 地域クラブを活動するにあたり要綱を定めて今年度スタートしていますが、現在の参加対象者は、「磐田市立中学校に就学する生徒」となっています。これを、「磐田市内に在住する中学生」に改正をしたいと考えているものです。今回の改正により、市内在住であれば、市外の公立、私立の中学校、市内の私立中学校に通学する場合も参加が可能になります。これまでは、中学校の部活動をどのように変えていくかという視点の中で検討してきたところから、実施要綱を定めたときには市内の市立中学校を参加対象と考えてきましたが、実際に SPO☆CUL IWATA 地域クラブをスタートさせたことで、浜松市の公立中学校に通う市内の中学生から、SPO☆CUL IWATA に参加をしたいという相談を受けました。協議を行い、先日行われた地域移行推進協議会でも委員から賛成の意見をいただいたため、この実施要綱を変えて対応していきたいということで、今回改正をします。

<質疑・意見>

■実施済主要事業の「みんなで話そう「わたしの居場所」意見交換会」はどのようなものですか。

□今年度、こども未来課が中心となって子どもの人権の条例制定を進める中で、磐田市の子ども子育ての会議を行っています。その作成にあたっては、子どもから直接意見を聞こうということも家庭庁の動きがあって、その一環から、委員も参加する中、専任のコーディネーターを擁して児童クラブの子どもたちを小グループにして、グループワークのような形態で、子どもたちが児童クラブで実際どのように思っているのかといったことの意味をもらうことで、子どもの居場所づくりをこれからその条例の中にも少し盛り込んでいきたいという中で行われたものです。児童クラブの低学年から高学年までが混ざって4グループで行いましたが、やはりプロの方の誘導でうまく進めているため、子どもたちも積極的に素直に意見を言っていました。追ってこども未来課がまとめて反映することになると思いますので、報告等が上がるのを私も期待をしているところです。

■ファシリテーターが入ったのですか。

□専門のファシリテーターが入って、非常にうまく進めていました。異学年の混ざったグループのため、ある程度支援員のアドバイスでグルーピングをしたと聞いていますが、的確なグループ分けができていたせいか、臆することなく発言をしてタグにまとめて、といういわゆるワーキングのスタイルで子どもなりにやっていたので、良い取組だと思って聞いていました。

■部活動地域連携・地域移行に関する意見交換会は中学校長対象ですが、どのようなものですか。

□校長先生向けには校長会で、SPO☆CUL IWATA の状況や、再編に向けての合同部活動の状況などを様々に情報提供していますが、校長会の場合は小学校長と中学校長と一緒に出席していることもあり、なかなか具体的な意見交換までは至らないところもあります。そのため今回は、中学校の校長だけで一度意見交換会を開いて、今の部活動をどう再編するかという取組について、校長からの生の声を聞きたいということです。また、来年度の令和7年度入学の子どもたちは、いよいよ SPO☆CUL IWATA 化によって、途中から部活動の休日がクラブ活動になるタイミングです。子どもたち向け保護者向けに、こういったアナウンスや説明をしていくといいかということで、毎年秋口の中学校別の入学説明会には出向いて直接保護者に説明をしています。昨年度まではまだ部活はあって、その上で移行やクラブがあるというところだったものが、いよいよ本当の意味で移行するタイミングが回ってきます。そこをどうしていくかということで、保護者向けに動画をパワーポイントで作って、より分かりやすくするように用意しています。実際に意見を聞きながら、各校長に動画も事前に見せて意見をもらいながら、どういう形で小学校6年生向けに説明していくといいのかを今やりとりしているものから、その2点で、意見交換会をさせていただきました。

(11) 中央図書館

<質疑・意見>

○竜洋図書館親子おはなし会&楽器工場見学に行かせていただきました。とてもよかったです。そこで河合楽器の方とお話ししましたが、磐田市にあるのに、浜松に比べて磐田の小学校の子はあまり来

てくれないそうです。磐田にこういう企業があるよということで、例えば竜洋地区でも他の地区の子でもいいので、工場見学できるゾーンがあることを学校に宣伝してくださいということでした。
□恐らく浜松が多いのは、本社は浜松であるがゆえに本社と協議をしているため、今回はファクトリーと河合音楽教室の、どちらも本社ではない部分で話をして動いたため、こういう機会になりましたが、これまで恐らく工場長レベルで地元の教育部門と話をすることはほぼない状況だったのではないかと思います。今後地元のお子さんたちの見学場所として訪れられるように、学校にも情報提供していきたいと思います。

(12) 文化財課

・市指定有形文化財「匂坂中村絵図」の指定理由の訂正

○本年4月26日開催の当委員会でご承認いただきました市指定文化財「匂坂中村絵図」について、委員会で説明しました指定理由の内容に一部誤りがありましたので、ここでお詫びと訂正をさせていただきます。

訂正の経緯としましては、当該物件の指定後、5月発行の文化財だよりにて指定物件の紹介をしたところ、市民の方から記載の内容に誤りがあるのではないかと電話があり、その件について調査したところ、ご指摘のとおり誤りであることがわかりました。

本件の対応については、訂正前の「匂坂中村の領主である旗本・高木氏の陣屋」の部分を削除した内容に変更し、今月9日開催の文化財保護審議会で報告をさせていただきました。訂正についての了承を得られましたので、本日の委員会で報告させていただくものです。

なお、今回、指定理由の変更はいたしますが、指定物件の価値は変わりませんので、指定の見直し・解除ということではありません。あくまで今後指定物件を説明する文章の内容を変更していくものになります。今後はこのようなことが無いよう、指定案件の資料調査等には充分注意を払ってまいります。誠に申し訳ありませんでした。

・遠江国分寺跡整備委員会委員の委嘱について

○中泉地区長が大場地区長から兼田地区長に代わりましたので、それに伴い新たに兼田氏に委員の委嘱をするものです。

<質疑・意見>

■訂正前の説明には「旗本・高木氏」と入っていますが、訂正後に「皆川氏」は入れないのですか。
□匂坂中村の領主は旗本の皆川氏で、高木氏は匂坂上村の領主ですが、絵図には匂坂上村の高木氏の陣屋が載っています。これは匂坂中村絵図ですが、領主としては匂坂中村の隣の匂坂上村の領主が載っていて分かりにくいこと、説明の文言についてもあくまでも絵図の細かな部分の説明であることから領主の陣屋については説明文から削除しましたが、実際には絵図に入っているというところです。
□審議会の委員の方たちもこれで問題ないという認識でいましたが、少し分かりにくいものでした。

■よく見つけましたね。

□かなり詳しい方で、石高帳などを丁寧にあたっている方がいらっしゃいました。今回のことで言うと、前にも同じ説明文を発行していて、それによりいろいろな資料を作っていました。実際には前の資料が間違っていたのですが、それがずっと続いていたところ、今回市民からの御指摘で違うことが分かり、委員の方も確認不足だったということで、審議会でも了承していただきました。

■見つけたのは地元の方ですか。

□地元の方です。

■やはり地元の方々には地元の古文書をよく見ていらっしゃるのですね。

7 協議事項

8 その他

・「市町村教育委員会研究協議会」参加報告

○8月2日に仙台に行かせていただきました。

文部科学省の方から念押しをされましたが、私たち教育委員に向けても含めて、学校教育というも

のが今の子ども状態像に合っているかどうか、詰め込み式ではないかとか、子どもたちに合った授業スタイルを提供できているかどうか、私たちが見ても楽しいと思える授業かというのを、学校訪問のときに見てきてほしいと言われました。

それと、不登校対策はもちろん子どもたちもそうですが、それをサポートする保護者の支援という目線も大事で、不登校になったときにやはり一番子どもも困るけれど、親もどうしていいかわからないので、親と子で戸惑うということになるべく減らすために、不登校になったときの情報を的確に保護者が得られるような、分かりやすい情報提供をしてくださいとも言われました。それと、宮城県白石市の学びの多様化学校の校長先生がおっしゃったのは、不登校になる理由で無気力が割合を占めていつも示されているけれど、無気力にただ見えるだけなのではないかとその学校を見ていて思うと。自分の思いをうまく言語化できない、他者に伝えられないからそのように見えてしまうのではないかと。だから、頭ごなしに先入観として持たないでほしいという意見もありました。

それとすごく衝撃だったのは、同じグループに東京都中野区の教育長さんがいらっしゃいましたが、毎週定例教育委員会をやっているそうです。午前や夕方に毎週やるそうですが、総合教育会議は1回だとおっしゃっていました。埼玉県と宮城県の方は、基本的には月1回で、総合教育会議は1回ないし2回でした。磐田市は減らす方向で、12か月あったら10回くらいにしてくださいという話もしましたが、総合教育会議は磐田市が1番多かったです。全体的な印象として磐田市はすごく進んでいる印象で、今から教育支援制度を整えたいという宮城県の方がいらっしゃって、校外の教育支援センターの制度も含めて、磐田市から提供することの方が多かったです。

9 次回の開催予定

・定例教育委員会

日時：令和6年10月3日（木） 午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

10 閉会